

## 人文学の境界を問う

### 身体・言語・テクノロジー

【日時】2023年1月26日(木) 13:00~18:00

【会場】日本大学文理学部本館 ラーニングコモンズ(登録不要。参加費なし。)

【使用言語】日本語・韓国語・英語(日韓は通訳付き)。



[成均館大学の雪景]

総合司会:高榮蘭(日本大学)

**開会の辞 13:00~13:20** 岡 隆(日本大学文理学部学部長) 黄鎬徳(成均館大学)

**【セッション1】13:20~15:00** 司会:関田朋子(文理学部)

徳本善彦(文理学部) 「日本語で書くということ — 李殷直「ながれ」をめぐって」

金庸鎬(成均館大学) 「大島渚の映画におけるアメリカの意味」

林度炫(成均館大学) 「『遠い国 隣国』シリーズからみた2000年代はじめの韓国人論」

羅 琛(文理学部) 「岡本文弥のプロレタリア新内」

休憩 15:00~15:20

**【セッション2】15:20~17:00** 司会:林泰勳(成均館大学)

琴寶玄(成均館大学) 「舞台の上のロボット—築地小劇場の「人造人間」をめぐる視線」

福尾晴香(文理学部) 「女性身体を奪い返す—1980年代日本と詩人伊藤比呂美の挑戦」

鄭藝仁(成均館大学) 「国家のテクノロジーとしての朝鮮半島の映画 — 申相玉による1960年代韓国映画と1980年代朝鮮民主主義人民共和国の映画を中心に」

立石信一(文理学部) 「菅原幸助『現代のアイヌ—民族移動のロマン』に描かれた白老とアイヌ民族表象をめぐって」

休憩 17:00~17:15

**【総合議論】座長:古川隆久・黄鎬徳 & 参加者全員 17:15~17:50**

**閉会の辞 17:50~18:00** 牧野理英(日本大学文理学部国際交流委員会委員長)

【共催】日本大学文理学部人文科学研究所総合研究「ICTを利用した文理学部国際化」・文理学部国際交流委員会・韓国成均館大学校文科大学国文学科／比較文化協同課程

【問合せ】日本大学文理学部・高榮蘭研究室